

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：21401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2014

課題番号：25580060

研究課題名(和文) 明治に出版された渡米の手引書に関する研究

研究課題名(英文) The Study on Guide Books about visiting America

## 研究代表者

加賀谷 真澄 (Kagaya, Masumi)

秋田県立大学・公私立大学の部局等・助教

研究者番号：70635044

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究「明治に出版された渡米の手引書に関する研究」は、明治の渡米ブームに乗って海を渡った若者たち(その中でも特に私費留学生)の出身階層を明らかにし、さらに当時の社会が期待した「海外雄飛する青年像」を考察する目的で実施された。「渡米の手引書」や、それに関連する資料を調査した結果、当時の知識人や苦学生の支援団体が、経済的に恵まれない階層の若者をサポートし、米国に送り出そうとする大きな動きがあり、実際に数多くの勤労学生が海を渡ったこと、そして、西海岸より就労も修学も困難である東海岸のラトガース大学に入学していた学生(力行会出身の学生)がいたことが確認できた。

研究成果の概要(英文)：This study titled as “Research on Guidebooks for Visiting the U.S. Published in Meiji Era” was performed aiming at clarifying belonged hierarchy of young people (in particular, self-supporting students studying abroad among others) who crossed the sea taking the opportunity of a boom of the U.S. visit in Meiji era and further discuss “a picture of young man to positively fly overseas” expected by the society back then. As a result of examination of the guidebooks and the related documents, it has been recognized that with a large trend among intellectual figures and organizations to support struggling students back then to support and send young people who belonged to economically poor hierarchy to the U.S., a large number of working students actually crossed the sea and that there was a student (from Rikko kai) who entered Rutgers University on the East Coast where it was more difficult to get a job and receive education than West Coast.

研究分野：比較文学

キーワード：ラトガース大学 海外雄飛 渡米の手引書 片山潜 私費留学生 スクールボーイ 苦学生 力行会

## 1. 研究開始当初の背景

明治期にアメリカへ渡った留学生については、彼らが入学した大学や、在籍した日本人留学生数など、ある程度把握されており、それらの情報は人物・人名辞典や海外へ渡った日本人名簿などに記載されている。しかし、記録されている学生は、比較的恵まれた階層出身であり、公費を支給されていた者が多い。

一方で、自力で渡航費と学資を工面し、渡米した学生の出身背景の調査は、ほとんど行われていない。その要因として、私費留学生の多くが学資を貯めるのに何年もかかり、留学生というより、出稼ぎ労働者として見なされてしまうこと、そして、高等教育期間に入学する前に、挫折してしまう者が多かったことが挙げられる。

19世紀の日本において、「下層社会」を描いた読み物が流行したが、同じ時期に、貧民を海外に移出することで貧困問題の解決を図ろうとする論が数多く発表された。そして、ほぼ同時期、若者に向けて渡米を推奨する「渡米の手引き書」がブームとなっている。

「渡米の手引き書」は、働きながら学校に通う方法、学資の貯め方から仕事の探し方、そしてゼロからの英語力修得方法など、アメリカで学問を身につけ、生き抜くための具体的な方法が紹介されている。

これらの手引き書は、社会の中から下層の若者の間でブームを引き起こしたが、では、「手引き書」は、具体的にどの階層に向けられたものなのだろうか。社会の下層の若者は、海を渡ることができたのだろうか。また、当時の社会は、どのような「海外雄飛する若者像」を描いていたのだろうか。これらの疑問が、本研究に着手するきっかけとなった。

## 2. 研究の目的

本研究「明治に出版された渡米の手引き書に関する研究」は、明治期に私費で米国へ留学しようとした若者たちに向けて書かれた手引き書をリスト化し、米国留学を目指した若者達の出身階層や渡米前後の生活環境を立体的に浮かび上がらせ、彼らが直面した困難と、それを切り抜けるサヴァイヴァル術を明らかにする。また、当時の社会が期待した「海外雄飛する青年像」を明らかにする。

## 3. 研究の方法

1) 「渡米の手引き書」や、それに関連した渡米情報の書籍のブームは、1901年刊行の片山潜の作品『渡米案内』に始まる。これ以降、日本人の米国への渡航が厳しく制限されるようになる日米紳士協定(1907年)締結まで数多くの手引き書が出版された。

本研究は、1901年から1907年までの間に出版された渡米案内関連書を研究対象とし、それらの資料を通して見えてくる米国の日本人苦学生の姿を明らかにする。

2) また、「渡米の手引き書」が、どれほ

ど若者に影響力を持ち、実際に若者が行動するまで導いていったのかを知るため、アメリカの東海岸の大学(ラトガース大学)の学籍簿をサンプルとして、労働者階級の若者が在籍したかどうかを調査する。

## 4. 研究成果

1) 本研究「明治に出版された渡米の手引き書に関する研究」の実施期間中、数多くの「渡米の手引き書」や、渡米関連書籍を収集することができた。

その結果、ほとんどの「渡米の手引き書」が、学資をもたない労働者階級の若者(車夫、工夫、印刷工、牛乳配達、商店の店員など様々な職種を含む)に渡米を奨励しており、具体的なアドバイスをしていることが確認できた。「渡米の手引き書」は、明らかに社会の中層から下層の若者に向けて「成功」の夢を描いているのである。

そして興味深いことに、富裕層の若者ではなく、無産階層の若者の方が有望であると明言している著者も複数いる。それは、片山潜と島貫兵太夫である。片山は、「東京に在る富裕なる所の学生よりも、寧ろ労働に従事せる人を以て宜しきものと看做すものなり、何となれば意志薄弱なる学生が金を握って移住するよりも却つて農家の子弟が無一物にして移住するも、其忍耐力の強きことを信ずればなり」(『自伝』)と、貧しい若者のタフネスに信頼を置いている。

これは、自分自身が日本においても、渡米後も、苦学生だった経験から来ている信頼なのだろうが、実のところ、『渡米案内』は、アメリカで著者本人が身につけてきた自主・独立精神を日本の若者へ向けた書であり、明らかに個人の成功、幸福の獲得を目標としている。片山潜は、個人の努力次第で成功がつかめるというアメリカ的な発想を日本の若者に対して発信しているのである。

そして、もう一人、本研究が目撃したのは島貫兵太夫である。島貫は、苦学生を支援する力行会を設立し、資金の貸与も行っている。そして、団体の機関誌である『力行世界』には、移民した若者たちからの通信文が掲載されていた。

島貫兵太夫の著作の一つ『最近渡米策』(1904年)は、渡米希望者からの質問・疑問に答える形式となっており、資力のある者よりも、貧しい若者に対して渡米を積極的に勧めている。明らかに苦学生を対象としていることがわかる。財産があるという若者からの質問に対しては、「苦労という事を知らないなら精神的資格はない」と断じている(『最近渡米策』)

1900年代に流行した「渡米の手引き書」が多くの読者を惹きつけたのは、英語に加えて料理や家政管理などの特定の技能を身につければ、米国で高収入の職業に就ける可能性があること、また、勤勉に働くことによって、学資を貯め、学問を修めることができる等、

たとえ貧しくとも、個人の努力次第で「立身出世」がかなうとされていたからである。

渡米の手引き書がターゲットとする読者層は、勤労、苦学することを前提とした中流以下の層であり、手引き書は、個人の成功の可能性に、より力点を置き、国内ではかなえられない立身出世の夢を実現可能なものとして描いてみせたのである。

しかしながら、アメリカで働きながら学問を修めることを目的として渡米した若者のうち、資金を貯めて英語力を身に付け、学校に通って学位を取るという最終的な目標に到達した者は少なく、そもそも、大学に入学する前に挫折することもあった。

日本からの移民船がサンフランシスコ港に着いたのち、その地で仕事を心得、季節労働者や家内労働者として日々の暮らしを送るうちに、その生活サイクルから抜け出せなくなった若者は、日本人向けの賭場や酒場にたむろし、「ゴロツキ」と呼ばれるようになったのである。

アメリカへ渡り、何らかの職について生計を立てることができても、その先に進もうとすると、数々の困難が待ち受けていた。条件の良い雇用先を探すこと、高等教育を修めるための英語力、そして入学金の問題。さらに、大学入学後も、学業を続けるための学資などの問題である。「渡米の手引き書」が描いた「海外雄飛」する青年とは、それらの困難をクリアするタフネスや優れたサバイバル能力を備えた人物像であった。しかし、実際には、最終的な夢をかなえた若者は僅かであった。

2)本研究は、「渡米の手引き書」に導かれ、アメリカに渡ったのち、数々の困難をクリアし、学位を得た学生を探すことも課題の一つとしていた。その中でも、片山潜のように、西海岸から東海岸へ渡り、学位を取得した学生を見つけることを目的とし、アメリカの東海岸のラトガース大学に赴いて調査した。

東海岸の大学は、農園で短期の季節労働ができる環境が近くになく、また、学費も高額である。したがって、比較的恵まれた階層の若者（ほとんどが公費による留学）が多く学んでいたことが分かっている。そこにも、貧しい階層出身の若者が在籍していたとすれば、まさに理想の「海外雄飛」する若者像と合致することになる。

最も古くから日本人留学生を受け入れ、日本人卒業生第一号（日下部太郎、1870年卒）を送り出しているラトガース大学は、そのような意味で、サンプルとなりうる大学であった。当大学で卒業生名簿の中から日本人を拾っていく作業を続ける中で、公的支援を受けている階層（士族階級、官僚候補生や大学教員などの知識階級）の他に勤労留学生を見つけることができた。

それは、力行会のメンバーであった若林捨一という若者である。若林は、渡米後、西海岸で小学校から入学して英語を学び、そのの

ちラトガース大学で学位を取得しているが、目的を達成するまでにアメリカで10年以上の年月を過ごしている。アメリカ滞在中には、島貫兵太夫が発行した『力行世界』に、通信文を何度か送っているが、その中で紹介された夏休みの農園での労働や、小学校での授業の様子、他に日本人の同胞などの情報は、アメリカを目指す日本の若者たちに夢と期待を抱かせたであろう。若林は、まさしく理想的な「海外雄飛する若者」だったのである。

本研究は、「渡米の手引き書」による渡米ブームや、苦学生を支援する動きにより、実際に「海外雄飛」する多くの青年が海を渡り、若林捨一のような若者が夢をかなえていたことを、日米の資料によって確認した。

3)最後に、副次的な研究成果について記したい。ラトガース大学の卒業生名簿には、出身・社会階層が不明のまま記載されている人物が複数あり、明治期から大正期にかけての海外へ渡った日本人名辞典にも載っていない人名が見られた。本研究で、そのうちの数名の特定をすることができた。

また、「渡米の手引き書」で集めたデータや、渡米した私費留学生のストーリーが、現代を生きる若者への大きな刺激になると考え、キャリア教育の分野の研究者に依頼し、大学生に「明治の苦学生の話に刺激されるか」というアンケートを行った。結果は、「小学生に混じって勉強したくない、しかし大変な努力を見習いたい」という回答が多かった。

この結果は、国際キャリア教育学会(2015 IAEVG International Conference)において、'Can Hard-Working Students of the Past be Role Models for Students of Today?'という題名でポスター発表することが決まっている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

加賀谷真澄、「明治の貧困をめぐる叙述」、『文学研究論集』、査読有、第32号、2014、19-32

加賀谷真澄、「明治30年の渡米熱 貧困問題、労働運動、『成功』雑誌との関係性」、『秋田県立大学総合科学研究彙報』、査読なし、第15巻、2014年、55-62

加賀谷真澄、「明治の移民論 横山源之助、片山潜、幸徳秋水を比較して」、『秋田県立大学総合科学研究彙報』、査読なし、第16巻、2015年、61-69

加賀谷真澄、「海を渡った若者たち ラトガース大学の日本人留学生」、『近代文学資料研究』、査読有、第一巻、1-17

〔学会発表〕(計2件)

加賀谷真澄、「1900年代の渡米熱」、「文学における社会的マイノリティ研究会」(2014年6月15日、於筑波大学)

加賀谷真澄、「Passion for Visiting to the U.S. in 1900's-in association with socialism」(2014年6月21日、Sophia University)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

加賀谷 真澄(KAGAYA Masumi)

秋田県立大学・総合科学教育研究センター・助教

研究者番号：70635044

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：